



生薬は、永い歴史の中で、経験的に体系化された漢方の原料として現代まで受け継がれてきたものであり、漢方薬の効能効果を担保するがゆえに、それらの製造方法は大きな変更もされずに現代に至っている。今後も新たな技術が確立されたとしても、漢方で使用される生薬に関しては、これまでの保守的な流れを踏襲することになると思われる。

しかし、医薬部外品や化粧品、健康食品で活用する生薬に関してはその限りではない。それらの中には、現代の科学的手法により評価した結果を指標として、より目的に適合した生薬へと変化させることが可能なものもある。

生薬の製造過程には、「修治」という工程がある。今回は、この修治という考え方を活かして進化させた生薬や活性に着目して進化させた生薬を原料にして開発した以下の4種の育毛剤用独自素材（抽出液）について述べたい。

1. 日局ショウキョウ末を粉末加工して進化させた独自のショウキョウ末を用いて製造した別紙規格ショウキョウチンキの開発
2. 漢方では使用できない細根も含んだニンジンを用いて製造した有用性の高い別紙規格ニンジンエキスの開発
3. 育毛関連の優れた作用を有する品種のセンブリを用いて製造した別紙規格センブリエキスの開発
4. 抗男性ホルモン作用成分が豊富な周皮も含んだ桑根皮を用いて製造した独自規格桑エキスの開発

さらには、抗男性ホルモン作用や育毛効果を有する素材として新規に開発した別紙規格モウコタンポ根エキスについても話すと同時に、開発した各種独自素材で処方化した生薬エキス100%育毛剤のヒトでの有用性についても触れたい。

最後には、美白剤用素材として開発した独自規格シソエキス（1）についても話すと共に、ほとんど知られていない医薬部外品と薬機法の関係についても、素材開発という観点から述べてみたい。